

単元：アフリカ州

単元目標：アフリカ州の自然、気候、人口、歴史的背景、モノカルチャー経済、紛争、資源、資源などの地域を特徴づける要素に着目して、食料問題や地域の将来などについて多面的・多角的に考察し、表現する。

問5 なぜ、近年アフリカに進出する外国企業が増えているのか。

【知識・概念】

人口が多く、資源に恵まれたアフリカは世界が注目する地域である。一方で、解決すべき課題も多く、特に現地の人々の生活を守りつつどのような開発を進めていくかが大きな課題である。



問4 なぜ、ガーナは、食糧不足が起きているのに、主食作物の栽培を増やして食料をまかなわないのか。その理由を、植民地であった歴史から考え、説明しよう。(④・⑤)

[知識・技能]

自然的な条件に加え、人口の多くが年少人口であるため、生産性が高まらない。また、生産されている作物は、輸出向けの商品作物が高い割合を占めているため、国内で消費する食料がまかなえていない。このような状況は、アフリカ州はヨーロッパの植民地であったために、独立後もプランテーションという大規模農園で重要な輸出品を生産していること、独立後も紛争が続いたために産業の発展が遅れたことなどが背景にあることを理解する。

問3 なぜ、世界の60%のカカオを輸出するガーナやコートジボワールで、食料問題が起きているのだろうか。ガーナの輸出品の特徴から理由を考え、説明しよう。(③)

[知識・技能]

私たちが食べるチョコレートの原料のカカオ豆は、ガーナやコートジボワールが世界の60%を生産している。一方、これらの国で不自由なく生活できる収入を得ている生産者は7%にとどまり、58%は極度の貧困状態である。その理由は、カカオの国際価格が2016年から2017年にかけて急落したため、ガーナはモノカルチャー経済の問題を抱えていることを理解する。次に、対策を考えることを通して「なぜ、食糧不足が起きているのに、主食作物の栽培を増やして食料をまかなわないのか」という疑問をもつ。

問2 アフリカ州で食料問題が深刻化している原因を、自然環境と人口の特色から考え、説明しよう。(①・②)

[知識・技能]

気候帯と農業分布の資料などにより、アフリカ州の多くは乾燥帯が広く分布し、人口増加にともないサハラ砂漠の南側にはサヘルとよばれる急激に砂漠化が進行している地域もあり土地生産性は低い。また、人口が急増し、労働生産性の低いことを理解する。しかし、ガーナやコートジボワールは熱帯であり、カカオ豆の生産に必要な高い湿度と気温、定期的な降雨があり比較的農業に適した地域に位置している。にもかかわらず、食料問題が深刻であることに疑問をもつ。

問1 アフリカ州で食料問題が深刻化している原因を予想しよう。(①自然環境、②人口、③モノカルチャー経済、④歴史、⑤紛争) → なぜ、アフリカは農業人口が多いのに、食料問題が深刻化するのか。

[知識・技能]

アフリカと日本とをつなぐものとしてチョコレートの原料カカオ豆があり、ガーナやコートジボワールで生産がさかんであることを理解する。次に、人口増加や栄養不足人口、食料自給率などの統計資料より、アフリカ州は食料問題が深刻であることを理解する。一方で、農業人口は多いことから「なぜ、食料自給率が上がらないのか」という疑問をもつ。

単元を貫く問い…なぜ、アフリカは農業人口が多いのに、食料問題が深刻化するのか。